

情 報 公 開 文 書

研究の名称	水疱性類天疱瘡とサルコペニアの関連性についての検討
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系・助教・松井悠
研究の概要	<p>【研究対象者】 2012年4月1日 ~ 2029年12月31日までの期間で富山大学皮膚科を受診し、臨床、病理学的にBPの診断となり、BPDAIによる重症度判定が moderate 以上で治療のために入院が必要と判断された患者のうち、悪性腫瘍に起因するBP発生を除外するために頸部から骨盤領域にかけてのCT検査を行った患者。</p> <p>【研究の目的・意義】 水疱性類天疱瘡は国の指定難病であり、自己免疫性水疱症の中で高齢者に最も頻度の高い難治性疾患です。中等症以上に対しては中等量から大量のステロイド内服療法や免疫抑制剤を併用し治療が行われるが、現在のガイドラインには治療強度の年齢による層別化は記載されておらず、加齢性変化が治療選択の際に考慮されるべき因子であるかは十分に解析されていません。今回骨格筋の加齢性変化と定義されるサルコペニアの有無によって2群に分けて、再発までの期間を評価することで予後予測の因子として有用かを検討いたします。</p> <p>【研究の方法】 水疱性類天疱瘡の病因として悪性腫瘍の可能性があるため、入院加療となった方には頸部から骨盤にかけてのCT画像を撮像しております。第三腰椎(L3)レベルにおける大腰筋、腰方形筋、脊柱起立筋の断面積を面積計測ツールで計測し、身長、体重と合わせて標準化し、サルコペニアの有無を判定します。</p> <p>原疾患に対しては水疱性類天疱瘡ガイドラインに準じた症状再発の有無(月に3個以上の新生病変(水疱、湿疹性病変、蕁麻疹様紅斑)あるいは10cmより大きい新生病変(湿疹性病変、蕁麻疹様紅斑)を認め、かつ1週間以内に自然消退しない場合、または既存病変の拡大や日常的な痒みの増強を認めた場合と定義し、症状再発までの期間を主要評価項目としました。また採血項目(抗BP180抗体価、好酸球数、Hb、Alb)、病理所見(C3沈着の有無)、入院期間、PSLの漸減過程でBW*0.2mg/kg/日まで漸減するのに要した期間も併せて渉猟いたします。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2029年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会発表および英文誌での論文掲載</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法(他機関への提供の有無)	<p>試料:本研修では試料の使用はありません。</p> <p>情報:通常の水疱性類天疱瘡の診断・治療に際して必要となる所見(病理検査や血液検査など)や病因検索の際に取得し得た画像検査所見、初診以降の治療内容と経過を電子カルテや病理検査台帳を基に確認し、データ処理、統計学的処理を行います。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院長 林 篤志

研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学学術研究部医学系・助教・松井悠
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7305 FAX 076-434-5028 E-mail yu4573@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学学術研究部医学系・助教・松井悠</p>